

事実と感想と意見を区別して

解答例

書

12 ②

ゴール 新聞を読んで考えたことを文にまとめよう。

○ 次の新聞を読み、記事からわかる事実を簡潔にまとめ、その感想と意見を区別して書きましょう。

二み排出量世界一の日本がするべきこと

日本の一年間の二み排出量は約450万トンド、これを一人一日あたりに換算すると、約一キログラムとなり、不気味な世界一となっています。

日本では排出された二みのほとんどが焼きやく処理されています。燃やすことにより二みは減りますが、ダイオキシンといった猛毒に形を歪めて、水質汚染など別の環境問題につながっていると言われています。

それでは私たちに何ができるでしょうか。「3R」(リ

ーアール)が、二みを減らすキーワードです。Rで始まる

3つの言葉、「リデュース」「リユース」「リサイクル」を推進

することで、二みを減らすことができます。

一つめは「リデュース」。「くり返し使う」という意味で

飲みもののびんを回収して再度使ったり、使えるものは

修理して使ったりすることで二みになります。

二つめは「リサイクル」。「再資源化する」という意味

で、新聞紙やペットボトルなどを回収して、新たな製品

の原料とする上で二みを減らし、資源も節約できま

す。

私たちの地球は、私たちが守らなければなりません。

始めてみませんか、地球のためにあなたができること。

※この記事はウェブサイトのために作成したものです。

ふりかえり

・新聞記事から事実を抜き出すことができた。

( )

・新聞記事の内容に対して、自分の感想と意見を区別して書くことができた。

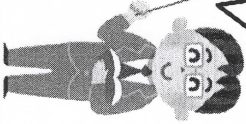
( )

まとめると

事実：現実にあること。実際にあったこと。

感想：あるものごとについて、感じたり思ったこと。

です。



【意見】

私は、二み排出量を減らすために、まず、「リデュース」  
「リユース」「リサイクル」の3つについて、みんなに知って  
もらうことが大切だと思う。より多くの人が知り、実行  
に移す人を増やしていきたい。

【感想】

日本の二み排出量が世界一だと知ってびっくりした。  
二みを減らすためには、「リデュース」「リユース」「リサイ  
クル」の3つが大切だと感じた。  
私もできることをしていかねければならないと思う

【事実】

日本の一年間の二みは、出量は約450万トンで、一  
人一日あたりにかん算すると、約一キログラムで世界  
一多い。  
日本では、はい出された二みのほとんどが焼きやく処理  
されています。燃やすことで二みは減りますが、ダイオキシンな  
どの猛毒が発生する。  
「リデュース」「リユース」「リサイクル」を推進することで  
二みを減らすことができます。

読

8 ①

何が書いてあるだん落かな? ①

ゴール 何が書いてあるのかをくわしく読んでみよう。

Aゾウの一番のどくちようと云えば、自由に動かせる長い鼻です。ところが、ゾウの鼻は短かったそうです。なぜゾウの鼻は長くなったのでしょうか。

Bおよそ五五〇〇万年前ころのゾウの祖先は、モリエリウムとよばれていました。体の大きさはアタくらいで、鼻も長くなかったそうです。ほとんど水の中で生活し、水草などを食べていたと考えられています。やがて、森やサバナの中でくらすようになり、てきから身をまもるために、体が大きくなっていました。大きな体をささえるために、足は太く長く、首は短くなりました。そのため、地面に顔を近づけて水を飲んだり、食べ物を食べたりするのがむずかしくなり、上くちびらが発達して、だんだんと今のゾウのような鼻になってきたと考えられています。

Cゾウの鼻には、ほねがありません。ほとんどぎん肉で、できています。人間と同じようにこぎゅうをしたり、鼻で水をすい上げ飲んだり、体に水をかけたりします。また、重たい丸太を持ち上げたり、小さな物をつまんだり、人間があくしゅをするように鼻をからませてあいさつをしたりします。

Dまた、ゾウの体にはさまざまなくぶりがさかれています。あせをかくきのうが発たつしていないゾウは、体温が高くなると、大きな耳をバタバタと動かします。おみ目のような血かんがたぐさんあつまっている耳を動かすことで、血かんをひやして体の熱をにがしているのです。そのため、あつところにすわつりフリゾウのほうが、インドゾウよりも大きな耳をもっています。また、体中にあるしわは、水あびをしたときに、そこに水をためて、皮がかんそりするのをふせいでいます。

Eこのように、ゾウは生きるために、かんきょうに合わせて、鼻をのばし、耳を大きくしてきたのです。

参考文献より作成

小宮輝之 かんしゅう「動物のふしぎ」  
カー・ウータン ちよ「ゾウの本」

ふりかえり

- 問いと答えのだん落の関係を読み取ることができた。( )
- だん落に書いてある事れいを読み取ることができた。( )
- だん落を短くまとして小見出しを書くことができた。( )

解答例

かいておれい

○ 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

一 Aのだん落は、問いを表すだん落です。その答えになっているだん落は、BからEのどのだん落でしょうか。書きましよう。

E 筆者が、言いたいことをまとして  
いるだん落をさがすといよ。

二 Cのだん落にはゾウの鼻の使い方が書いてあります。それらの鼻の使い方の中から、三えらんで書きましよう。

いきゆうをさする

水をすい上げて飲む

○ ほかの答え  
・ 丸太を持ち上げる  
・ あいさつをさする  
体に水をかける

ならべて書いてあることわざがして  
みるといですぬ。

三 Eのだん落を短くまとして、小見出しをけます。Dのだん落に書いてある言葉を使って、小見出しを書きましよう。

(例) ゾウの体のくぶう

このだん落で筆者が、伝えたいこと  
とはどんなことか書えよう!

読 8 だん落に小見出しをつけ、それぞれの関係をとらえる。

解答

H21 全国B2  
小学校3年

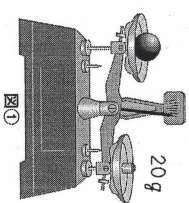
1 上皿てんびんと分銅を使って、いろいろな物の重さを調べています。

たかしさんは、赤、青、黄、緑、黒の5つの球の重さをはかり、その結果を右のように紙に記録しておきました。

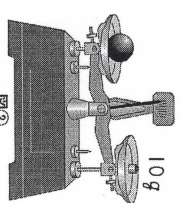
ところが、どの色の球がどの重さなのかわからなくなってしまいました。そこで、たかしさんは、黒の球の重さをもう一度調べるために、3つの実験を次の順番で行いました。

9g
13g
15g
17g
24g

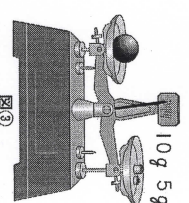
【実験①】はじめに、左の皿に黒の球をのせて、右の皿に20gの分銅を1つのみせました。すると、図①のようになりました。



【実験②】次に、右の皿に20gの分銅のかわりに、10gの分銅を1つのみせました。すると、図②のようになりました。



【実験③】さらに、右の皿に5gの分銅を1つ加えました。すると、図③のようになります。



たかしさんは、実験①、実験①と②について、下のように表にまとめました。

	黒の球の重さについて 実験からわかったこと	黒の球の重さとして 考えられるもの
実験①	20gより軽い	9g, 13g, 15g, 17g
実験①と②	10gより重く20gより軽い	13g, 15g, 17g
実験①と②と③	ア	イ

表の続きをまとめます。実験①と②と③について、上の表のアとイに入る言葉や重さを書きましょう。

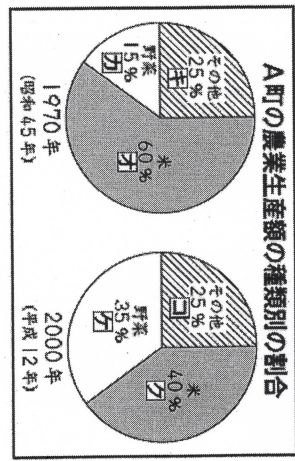
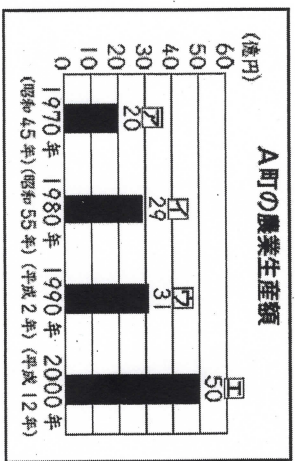
ア (例) 15gより重く20gより軽い

イ 17g

2

ひろしさんが住んでいるA町の農業生産額について、下の2種類の資料を使って調べます。棒グラフは、農業生産額を1970年から10年ごとに表しています。おひろしは、1970年と2000年の農業生産額の種類の割合を表しています。

H20 全国B2  
小学校3・5年



(1) 上のように、棒グラフと円グラフに表された生産額や割合に、アからコまでの記号を付けました。

A町の2000年の野菜の生産額を求めるためには、資料の中の ア から コ までのうち、どれが必要ですか。

ア から コ までの中から2つを選んで、その記号を書きま

答え エ と ケ

(2) 次は、米について考えます。

A町の1970年と2000年の米の生産額について、ひろしさんは、右のように言いました。

「正しい」か「正しくない」かのどちらかを○で囲みましょう。また、そのわけを、言葉や式を使って書きま



「正しい」 「正しくない」

わけ (例)

米の生産額は、農業生産額×米の生産額の割合で求められるから、米の生産額を比べるためには、米の生産額の割合だけでなく、農業生産額も考えなければい

けない。また、米の生産額を求めると、12億円から20億円に増えている。だから、ひろしさんの言っていることは、正しくない。

米の割合が、60%から40%に減っているから、米の生産額は、減っています。